



# 『減感作療法』について

## ～スギ花粉症でお悩みの方へ～

土浦協同病院なめがた地域医療センター 小児科 薄井 香

スギ花粉症は、スギ花粉が原因（アレルゲン）となって引き起こされ、春先にくしゃみ、鼻水、鼻づまり、目の痒みなどのつらい症状を起こす疾患で、日本人の25%がスギ花粉症の症状を有すると分かっています。今回ご紹介する減感作療法（アレルゲン免疫療法）はアレルゲンを低濃度で少量ずつ投与し、徐々に投与量を増やしながらか投与することにより、身体をアレルゲンに慣らし、症状を和らげたり、日常生活に与える影響を改善するなど、根本的な体質改善を期待する治療法です。以前は医療機関で皮下に注射する「皮下免疫療法」だけでしたが、最近では舌の下で錠剤を保持する「舌下免疫療法」が登場し、自宅での服薬で治療が出来るようになりました。

治療に当たってはまず、血液検査等でアレルギーの原因を確認したうえでスタートします。当センターでおこなっている舌下免疫療法は、安定すれば1から2ヶ月ごとの通院で済みます。具体的にはアレルゲンを含む錠剤を毎日舌下（舌の裏）に1～2分間含んだあとに飲み込みます。その後5分間はうがいや飲食はできません。治療開始後2週間目から少し増量し、その後は同量を維持します。初回は病院で投与し様子を診ますが、2回目以降は自宅でおこないますので、基本的には自宅での治療となります。花粉の飛散時期には治療を開始できないため、初回投与は6月～11月頃におこないます。治療期間中でも花粉の飛散時期に症状があれば、内服薬を飲んだり、ステロイドを含む外用薬（点眼、点鼻）を併用することも可能です。

舌下免疫療法は、12歳以上では、約8割の方に効果が現れています。2018年からは、11歳以下にも治療が可能となり、5歳頃から始めることができます。また鼻だけでなく目の症状にも効果があります。

舌下免疫療法ではアナフィラキシーなどの重篤な副作用は一般的に極めて少ない（約1億回に1回で、死亡例はなし）とされていますが、口腔浮腫や口内炎、咽頭刺激感、口腔内の搔痒感などの症状がみられる事があります。投与を続けるうちに軽減することが多く、治療そのものに影響することはありませんが注意が必要です。

花粉症患者は年々増え続け、子どもの発症も増加しています。スギ花粉シーズンは卒業、受験、入学、就職シーズンでもあり親にとっても悩ましい症状です。抗ヒスタミン薬も「眠気が少ない」「1日1回」など服用しやすくなっているとはいえ、できれば飲みたくないという方も多いでしょう。治療を開始後初めてのスギ花粉飛散シーズンからの効果が期待されますので、減感作療法も治療の選択枝のひとつとして考えてみてはいかがでしょうか。

我が国に於ける舌下免疫療法ではスギ花粉症と、ダニアレルゲンによる通年性鼻炎が保険適応になっております。

治療を希望される方は、当院では既に治療経験のある小児科外来へお問い合わせください。成人の治療も行っています。

